

令和4年度第2回サッポロスマイルトーク
「ゆき」と共に暮らす～どうする？札幌の除排雪～

令和4年10月1日（土）14時～
チ・カ・ホ 北3条交差点広場

■司会・真砂 徳子さん

皆様、こんにちは。

お時間になりましたので、これよりサッポロスマイルトークを開催致します。

本日はお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

このサッポロスマイルトークは、札幌市役所のお仕事に関する様々なテーマについて、市民の方々と市長が語り合うトークイベントになります。

今日のテーマはですね、「ゆき」と共に暮らす～どうする？札幌の除排雪～」をテーマにたくさんの方にお話を伺っていきたいと思っております。

申し遅れましたが、本日の司会進行を務めます、真砂 徳子（まさご のりこ）と申します。どうぞよろしくお願い致します。

では、わたくしも座らせていただきまして、早速本日のゲストをご紹介しますいただきます。

ステージ向かって右側お一人目です、原文宏（はら ふみひろ）さんです。

原さんは、一般社団法人北海道開発技術センターの理事、そして地域政策研究所で所長も兼任されています。

積雪寒冷地の道路や交通に関わる調査研究に長年取り組まれていらっしゃいますので、今日はですね、雪との向き合い方・付き合い方について、ご助言・さまざまなアドバイスをさせていただきます。よろしくお願い致します。

続きまして、三浦 世子（みうら せいこ）さんです。

三浦さんは、北海道コカ・コーラボトリング株式会社の新領域デザイン室 室長をされています。

その日のうちに野菜が届く「やさいバス北海道」や、コワーキングスペース「COCOON（ココーン）」の事業を展開されている、とお聞きしております。

本日は、関わられている事業のお話や、いち市民として生活者の目線でのお話などを伺っていきたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

続きまして、宮浦 征宏（みやうら まさひろ）さんです。

よろしくお願い致します。

宮浦さんは、札幌市の道路除雪を担っている企業のほとんどが所属しております札幌市除雪事業協会の会長でいらっしゃいます。

本業は、南区にあります公共工事や除雪・排雪業務を行っている、宮浦興業株式会社の代表取締役でいらっしゃいます。

本日は、除雪作業を実際にされているお立場からのお話など伺いたいと思います。
どうぞよろしくお願い致します。

では、ここで主催であります秋元市長からご挨拶をいただきます。
よろしく申し上げます。

■秋元 克広 札幌市長

みなさん、こんにちは。札幌市長の秋元でございます。

座ってお話をさせていただきます。

先程、司会の方からお話がありましたように、このサッポロスマイルトーク、こういうオープンな場所です、札幌市の市政に関わるいろいろな事をお話をさせていただいて、たまたまここを通りかかった方などにもですね、耳を傾けていただいて、いろいろな事に関心を持っていただくという事で開催をしています。

今年で8年目になりまして、通算18回目という事になります。

今回は「ゆき」という事をですね、テーマにお話をさせていただきます。

昨年度、今年の1月2月、大変な大雪、札幌でございました。

今までの観測史上の中でですね、最高値を超えるような雪という事で、市民生活にも大きな影響があったわけでありましてけれども、そういった除雪・排雪の今後の事など。

それから、一方でですね、世界でこれだけの雪がある大都市というのはありません。

100万人以上の人口を抱える都市で、3m以上の雪が降る都市っていうのは札幌しかないわけで、そういう意味ではこの雪というものをですね、ある意味では水を困ることがない、札幌で水に困ることがないという事も、実はこの雪がある事で、自然のダムになっていて水が枯渇しないというような事もあります。

そういう意味で私達の生活の中では、この雪というものと切っても切れない暮らしとの縁というか、関係がありますので、是非この雪をどういう風に克服していくのかという事と同時にですね、雪のある生活という事を、もう少し楽しむというか、そういった事も含めて考えていければというふうに思っているところでありますので、今日はいろいろな、限られた時間ではありますけど、皆さんといろいろなお話ができればと思っております。

どうぞよろしく申し上げます。

■司会・真砂 徳子さん

よろしくお願い致します。ありがとうございます。

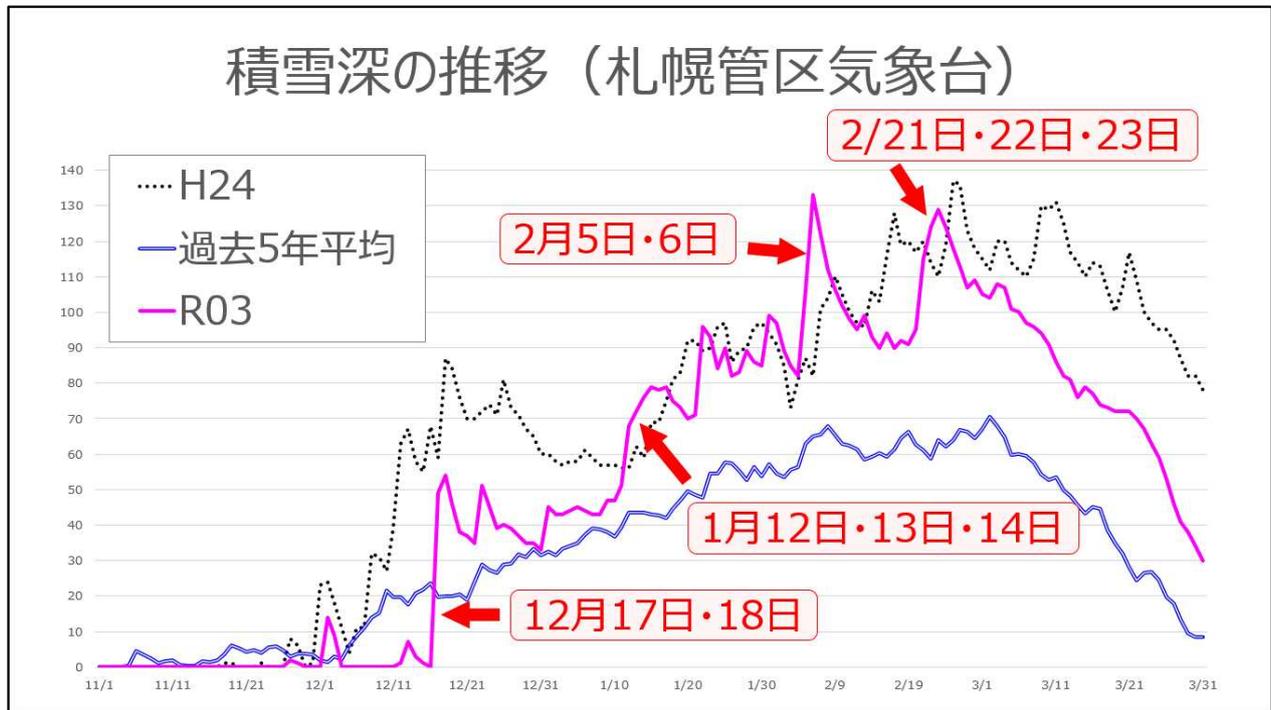
本当に市長、私も札幌に25年住んでいるんですけども、雪のある生活、それはしっかり日常で根付いてはいたんですが、特に昨年は、本当に降りましたよね。

買い物行ってる時に、帰ってくるまでに雪だるまになるんじゃないかって思うくらいな降り方だったんですけども、実際どのような状態だったかっていうのを、データで紹介いただけますか？

皆様スクリーンにご注目いただければと思います。

■秋元市長

皆さんのほうからもスクリーンの方にもですね、あるのでそちらも見ていただきながら
と思っているんですけども。



この赤い線がですね、今年の冬といたしますか。

昨年度の雪の降りかた、これが積雪深といたしまして、雪が積もった深さを表したものであります。

上にいけば、何 cm という形でですね、ずっと上がっていきまして、黒い点線の所が、今まで最大に大きかった平成24年のもので、数字を表しています。青いのが、5年平均値、平均をした時の降り方という事なんですけれども。

これ見ていただきますと、12月の17日、18日、それから1月の12日～14日まで、2月の5日、6日とですね。ボンと、それから2月の21日という事でボンボンと、大雪になっているのは4回きています。これはもう、24時間降雪量といたしまして、1日に降った量の今までの最大値を、2回更新をしたと、いう事になってまして、非常に点線の、平成24年の時の積雪深も多いんですけども、何度かこういう大雪がきてしまったと、いう状況です。

そういう意味では、今までの経験した降り方とはですね、ちょっと違った降り方になっているというのが特徴です。

■司会・真砂 徳子さん

はい。

実際の、皆様、今データをご覧になって、確かに本当にすごい雪だったなっていう事を実感されたと思うんですが。

宮浦さんは、除雪を毎年行っているというお立場から、今のデータを改めて見て、実感されていること、それから、雪害といたしますか、雪による災害という言葉もよく耳にす

るようになりましてけれども、そういった観点からどのような事をお思いになりますか？

■宮浦 征宏さん

今、市長が説明させていただいた通りに、今年の雪は本当に災害級、災害級という言葉だけで、過去にない雪ってということだけが言葉としては出てくるんです。

じゃあ実際どうなんだ？っていう事になると、どうしても雪の除雪の状態としては、市民の皆さんは降った時の状況としては、特段って言い方したら申し訳ないんですけども、不便がないっていうか、降っただけなので直接的な被害にはならない、遭われてないというのが現状でありまして。

ただその時に、この降雪量からは風だとか、雨の量に換算しますと、もう本当に台風、災害級の量というふうに感じていただければと思います。

雨だともう完全に洪水になっているような量ですし、風だともうすごい被害が出ている状態だと思うんですけども、こと雪に関しては、しんしんと降り積もってる量なので、今北海道に住まれている状態の中では、その場では生活に困らない、普段の生活ができる状態なんです。

ただ、交通網が上手く動かないという事になって、除雪が追い付かないって事になりますので、市民の皆さんにはご不便等々、そのあとに関わるような事にはなってると思うんですけども。

その、すぐすぐ台風だの、水害だとか風のように、災害って形で、直接的な何か目に見えた事（被害）がないので、なかなか災害と位置づけしづらいと思うんですけども、明らかにこの雪の量っていうのは、もう災害って思っただけでも構わない、（災害と）思っただけでも構わないと思いますね。

その為に、我々の業者としても除雪が追い付かなかったところと、言わざるを得ないんですけども、それが災害という言葉をもう少しこの雪に関しては、皆さん認識していただければと思うんですけども、なかなかそこに、直接的にその日その時その瞬間に災害って思える状況じゃないので、なかなか災害と結びつかないところがちょっと、あるとは思いますがね。

■司会・真砂 徳子さん

確かに、今までにない以上の雪が降ったからこそ、なかなか追い付かなかったという部分もあったという事ですよ。

同じ質問になるんですが、原さんはどのようにお考えですか？

■原 文宏さん

私は、北広島に住んでいて、札幌で仕事しています。今、67歳なんですけど、かなりの期間を札幌及び近郊で暮らしていて、昨冬の雪は、私の人生の中で、1回あったかなくらいのレベルでした。

皆さんも統計的な事は別として、自分の人生を振り返ってみて、昨冬みたいな雪が何回あったかな？って、考えていただければゼロか、1回程度の方がほとんどではないでし

ようか。

ですから肌感覚としても、昨冬の雪は、宮浦さんも言われたように災害級といって良いレベルと思います。

ただ、災害っていうと、地震とか、津波とか、そういった事をイメージすると思いますが、雪害は、地震、津波が予期せず、物凄いインパクトで、短時間に発生するのと違って、毎年必ず、長期間、降る雪が、時々「ドカ雪」や「大雪」になるので、災害として認識しづらい傾向があると思います。

でも、米国のFEMA（フィーマ：アメリカ合衆国連邦緊急事態管理庁）という災害の時に、国全体の危機管理をする機関では、地震や津波と一緒に、雪害（ウィンターストーム）が災害として位置づけられています。つまり、一定以上の雪害は災害に扱われているのです。

ですから、我々も、降雪や吹雪には災害クラスのものもあるという事を、日常的に認識して、個々の対策を含めて、心構えをしておく必要があると思います。

■司会・真砂 徳子さん

ちなみに、ご研究を通して、今世界的な気象状況と言いますか。

雪に関しては何か、やはり今までと違うような変化というのは起きているんでしょうか？

札幌だけではなくて。

■原 文宏さん

雪に関してだけということではなく、地球全体として、北極の氷が少なくなったり、地域的に極端に寒くなったり、極端に雪が降ったり、極端に暖かかったり、っていうような場所や回数が、以前よりはずっと多くなっている事は事実ですね。

■司会・真砂 徳子さん

はい。

いつもとはまた違う事情があるっていう事は、理解、了解して冬を暮らしていかなきゃいけないって事になってきますよね。

■原 文宏さん

そうですね。

■司会・真砂 徳子さん

では、三浦さんにもお伺い致します。

コカ・コーラボトリングさんですと、例えば物流ですとか、こういった雪が降りますと、大変になると思いますし、企業活動でなにか影響があったことがありましたら教えていただきたいのですが。

■三浦 世子さん

はい。ありがとうございます。

私達、北海道コカ・コーラボトリングではですね、物流のグループ会社がありまして、大体20tトラックですとか、色々な大きさのトラックが1日100台くらいですね、走ってるんですね、道内を。

その中で3つ程、本当に今回は困ったな。という事がありました。

まずひとつは、交通麻痺による大渋滞が起こってしまいました。

なので、その時にドライバーが拘束時間がですね、否応なしに伸びる。という事があって、非常に労働時間もオーバーしてしまった、という事がひとつ、ありました。

もうひとつは、道の幅がですね、皆さんご存じの通り、すごく狭くなるので、20tトラックの車がですね、通ることができない道がたくさん出来るんですよ。

そうすると、迂回路をみつけないといけないという事で、またまたいろんな所にいかないといけないっていう事で、時間がかかってしまう、と。

そうすると、皆さんに運ぶ物資、輸送がですね、遅れてしまうというのがありました。

最後に、もうひとつなんですけれども、対向車、これちょっと本当に怖かったというお話聞いているんですが、対向車とすれ違う道幅がなかったんですよ。

それで、実際に停止していた弊社のトラックにぶつかっていった車ですとか、そういう接触事故が、実際に起こってしまった、という事がございました。

今、3つ言ったんですが、これがですね、例えば今後つながって、雪のですね、豪雪っていうのが起こってくると、2024年にドライバーが連続勤務出来る時間が8時間っていうふうに決まるんですね。

そういった法律が出来てくるので、そういった時に、正直北海道のような広大な土地で遠くまで物を運ぼうとした時にですね、8時間では全然収まらない事っていうことが出てきて。

イコール、皆さんの元に物資が届いていかないと、というような事が起こってくると困るので、今その対策を必死に考えているような、そんな状況です。

■司会・真砂 徳子さん

なるほど。

実際の、いち市民としては、お困りになった事などはありませんでしたか？

■三浦 世子さん

私に関しては、すごく物流と比べると非常に小さな問題なんですけれども。

私、車を持っていないものですから、タクシーに1回乗ったんですね。

そうしましたら、タクシー全然進まなくて、ものすごいメーターが上がっていくっていう、そういう恐怖を感じた事はあります。

■司会・真砂 徳子さん

本題が除雪・排雪という事で、進めて参りたいと思います。

市長、市民生活の影響があったという時期ではあったんですけども、実際どのような状況だったのかっていう事も、お話いただけますか？

■秋元市長

そうですね。やっぱり、道幅が狭くなりますので、渋滞が起きて色んな時間がかかる
と、いう事がありますし。

それから、生活道路なんかでも、タクシーだとか、やはり車の渋滞というのはありま
す。

それから、雪多い時も道幅狭くなるんですけど、やっぱり溶けてくると急に溶けてき
て、スタックしてしまうというか、埋まってしまうような事があって。

やっぱり、動く事ですね、車を中心に動くという事が非常に困難だったという状況が、
またいろんな生活の面です、企業の活動ももちろんそうですけど。

いろいろな影響があったという事、これは事実だろうというふうに思いますね。

■司会・真砂 徳子さん

そういった中で、私は縁の下の力持ち的に、除雪・排雪事業されている宮浦さんはご活
動されていると思うんですけども。

やはり、昨年の大雪に関しては、今までとは違う、作業される上で全く違うっていう事
はございましたか？

■宮浦 征宏さん

基本的には、新雪が降って、除雪をする、かきわけ除雪って事は、朝までに道をあけな
きゃいけないっていう作業自体は、何かしらの作業的には出来た事は可能だったんです
けども。

その後、道幅が狭くなってしまって、確保しなきゃいけない排雪って作業がですね、な
かなか量が量でしたので、追い付かなくて、市民の皆様にはご迷惑おかけしたと思うん
ですけど、そこになかなか追い付かなかったっていうのは現状であります。

ただ本当に、皆さん関心を持たれている事だと思いますし、我々業者の従業員も、本当
に今年の冬はですね、寝ないでずっとやって、本当に休みなく働き続けてはいたんです
けども、さすがになかなか追い付くような雪ではなかったっていうのが現状ではあり
ましたね。

■司会・真砂 徳子さん

やはり、想定していなかった以上の量だった、降り方だったという事になりますね。

■宮浦 征宏さん

はい、そうですね。

それに加えて近年小雪傾向があまりにも続いて、どうしても我々排雪となると、普段の
除雪は我々が抱えている除雪車、除雪機だけで除雪が出来るんですけども。

こと雪を投げる排雪となりますと、除雪機とダンプカーが必要となってきますので、こ
のダンプカーの確保というのが、なかなか小雪傾向がずっと続いてますと、そうなる
と用意しないって言い方おかしいんですけど、そこまで必要なく、冬を過ごせてきたもの

が段々、そこまで用意しなくても大丈夫って言い方おかしいんですけど、抱えると抱える程我々の経費も負担もかかってきますので、少し抑え気味になっていた部分も若干ありまして、その分急に多くの雪が降りますと、ダンプの台数も足りないって事も相まって、排雪がなかなか追い付かず、市民の皆様には結構ご迷惑をかけたって事は本当に否めないかなと思います。

■司会・真砂 徳子さん

ご尽力された中で、間に合わない部分もあったという事ですよ。市長、皆さんからお話伺っていかがでしたか？

■秋元市長

はい、やっぱり今年は大雪であった事は事実ですけども。いろいろな形でやっぱり市民生活に影響が大きくありましたので、そこをきっちり対策をとっていく、という事をしていかなければいけない。これからの事としてですね、今年の冬から含めてですけど、昨年 of いろいろな反省を踏まえてですね、対策という事を今、考えてきたというところです。

■司会・真砂 徳子さん

これを教訓にして、またどんな場合にも対応できるような具体策を、今考えているという事になりますね。

■秋元市長

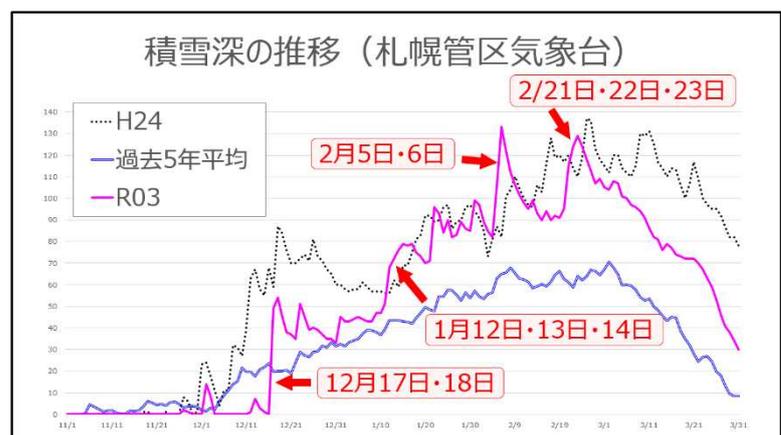
具体的な話をしますと、先程ちょっと見ていただいたパネル、モニター、もう一回出していただければと思いますが。

■司会・真砂 徳子さん

モニターにご注目下さい。

■秋元市長

よろしいですかね。平年だとこの青い線のような、平均値の降り方になりますので。大体、積雪深っていうのが50cmくらいまでいくのにはですね、1月の中旬～下旬くらいっていうのが平均値なんですね。ですから、この除排雪の対策、除雪除雪っていうふうに言ってますけど。



実はその除雪という、横に雪をよけておくのと、雪を運び出す排雪・運搬という事ですね、この二つがあるんですけど。

雪が降った時、除雪という事でかき分けをして道路の横に積み上げていくんですけども、多くなってくるとそれを運び出すという作業をするんですね。

それが、例年の降り方の状態でいった時に、体制として1月の中旬くらいから排雪作業というのを入れて、1月中に大体大きな道路を終わらせて。2月に入ると、いわゆる生活道路、住宅内の排雪作業っていうのを入れて。3月の頭くらいで終わると、というのが例年のかたちで、そういう体制で組んでるわけですね。

というのは、除雪をする方とさっき言った排雪をされる方、事業者の方、同じ方がされてますから、排雪にはいろんなダンプトラック含めて、体制が要るので、平均的には今言ったように1月の中旬くらいから始める体制という事になってます。

で、今年の降り方見ていただくと、12月にどかっと、きてます。

で、1月の頭から排雪作業入ったんですけども、その後にも、1月の12日に、どかっと、きたという事で。例年よりは、この排雪作業、早めたんですけども、その後降った雪で全体が遅れ遅れになっていった。で、また2月に降って遅れてしまった。という事がありました。

これを、少し教訓としてですね、仮に今年というか、昨年度のように、12月中、早い時期に雪がきた時に、大体先程見ていただいたように、40cm、50cm になってきた時に排雪をしなければいろんな影響が出てくるので。仮に一度にどんときてですね、40cm、50cm の積雪になったらその時には、ちゅうちょなく、排雪・運搬作業を入ろうと、いう事の計画を、今作ってます。

そのための経費をですね、今の補正予算として組み立てている状況です。

簡単に言いますと、1月の中旬から始めていたのを、雪の降り方によって、多く降った時には、早く排雪作業を始める、という事が一つです。

それから、昨年度が非常に雪が多かったのも、雪堆積場という、郊外に雪を積み上げておく所があるんですけども、そこがすぐ満杯になってしまった。そこに行くのにですね、トラックが時間がかかって、一旦積んだ雪を捨てに行って、戻ってくるまでに相当時間がかかってしまったという事がありました。

非常に効率が悪くなったので、この雪堆積場というものを、数を増やしていく。

それから、そこに積み上げる容量を増やしていくという事で。

排雪・運搬作業を早める。それから、初めから雪堆積場というものを少し確保して、雪が多く降ったとしても、トラックの行き来がですね、効率的になるようにしていこう。

というのがですね、今回の大きな見直しといいますか、反省点で対応の柱という事になります。

■司会・真砂 徳子さん

今、市長のコメントを一生懸命メモを取られている方も大変たくさんいらっしゃいますけれども、そういったものがホームページでもしっかり確認できるようになっているのではないかな、と思います。

市長、ありがとうございました。

ではですね、ここでちょうどお時間14:30くらいになりました。

ここで会場の皆さんのお手元にある、質問用紙を回収させていただきます。

いただいた質問の中からいくつか選んで、後ほどご紹介をさせていただきたいと思っています。

どうぞご質問、青い用紙になりますので、ありましたらご記入下さい。

ご記入したものはスタッフが回収して参ります。

今ですね、この質問を回収している間に、札幌市に寄せられている、よくある質問・疑問について、本日の対話者の皆さんにお話を伺ってみたいと思います。

スクリーンの方、ご注目下さい。

まず最初の質問ですね。

「Q.深夜の除雪は睡眠を妨げる。昼間に除雪出来ませんか？」

というご質問です。

市長、こちらのご質問いかがでしょうか？

■秋元市長

はい。確かにですね、夜の除雪うるさいなという声というのはあるんですけど。

どうしても先程も申しましたように、雪の、ある程度一度に降ってきてそれを効率よく処理しなきゃならない、という事を考えるとですね。札幌市内に雪を除雪しなければならない道路の延長・長さっていうのは、5400kmあるんですね。

5400km って、なかなか皆さんイメージ湧かないと思うんですけど。

沖縄の石垣島まで行って戻って来るぐらいの距離を一晩で除雪をしなきゃならないと、いう状況があるんですよ。

なので、出来るだけ効率よくやる為に、交通量の少ない時間帯を選んでやらなければいけない、という事で、深夜、そして通勤・通学が始まる時間までに終わらせるという事です。

かなり短い時間にですね、作業しなきゃならないという事があって、そういう意味では音の問題っていうのはですね、迷惑だっていう方もいらっしゃるかとは思いますが、でも。

そこは、日中はなかなか作業の進み具合が進まないのだという事でご理解いただければ、とそんなふうに思います。

深夜の除雪は睡眠を妨げます。
昼間に除雪することはできませんか？



深夜の除雪は睡眠を妨げます。
昼間に除雪することはできませんか？

除雪作業は、交通量の少ない深夜から
通勤・通学時間までの間に行っています。
交通混雑や事故を避けるためですので
ご理解をお願いします。



■司会・真砂 徳子さん

はい。

ちなみに、三浦さんは、深夜の除排雪、気になったりする事なんてありますか？

■三浦 世子さん

除排雪に関しましては、そんなにですね、私、実は気になった事があまりないですね。むしろ、除雪が入ってくれてるなっていう音を、安心して眠りにつくみたいなの、そういうタイプの人間です。

■司会・真砂 徳子さん

はい。

様々なご質問ある方はどうぞ用紙に書いてお渡し下さいね。

はい、ありがとうございます。

では、次の疑問になります。二つ目です。

「Q.家の前に雪を置かないよう、雪を持って行ってほしい。」

というご意見なんですけど、こちらは宮浦さんにお話お聞きしてよろしいでしょうか？



■宮浦 征宏さん

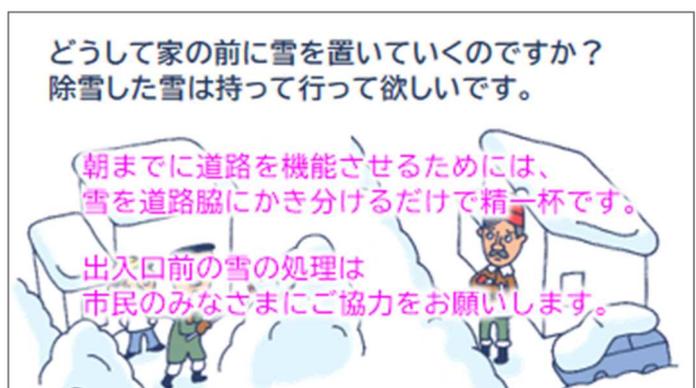
まず、普段我々除雪除雪って言って雪が降った時に夜に出てる除雪っていうのは、本来除雪っていうものでありまして、車道の雪を歩道または路肩の方にかきわけて、横に置いていく作業をしております、それを除雪という風に我々は作業の位置づけしております。

それで、その溜まったものを改めて

雪を運び出す作業の事を排雪と呼んでおりまして、それが排雪作業というふうにして位置づけで作業としてあるんです。

除雪というのは、市長がさっきお話しましたように、夜中から朝方までに道を取りあえず確保して、朝に通勤・通学が出来るようにするというものが除雪っていう作業であります。

ただ、路肩に置いた雪が段々狭くなってきますので、その間に一回拡幅、ちょっと道を広げる作業があるんですけども、それでも道幅が確保それ以上出来ないってなります



と排雪という、雪を運び出すっていう作業をします。それが排雪作業となるんですけども、なかなかその排雪作業となると、機材も人材も、時間も費用もかかりますので、どうしてもまずは除雪っていうのを優先して行っているというのが現状であります。

■司会・真砂 徳子さん

はい、ちょっとタイムラグがあるのは仕方ないところだっという話ですね。

■宮浦 征宏さん

そうですね。

■司会・真砂 徳子さん

除雪と排雪の定義が違うっていうのは、私知らなかったんですけども。三浦さんはご存じでしたか？

■三浦 世子さん

そうですね。

私も除雪と排雪、言葉を聞けば今のように、ご説明いただくとすごくよくわかるんですけども。

ただいつもはよく思い出してみると、除雪された道を見て。

あ、まだ除雪されてないんだねって言ってたような気がします。

排雪されていないっていうことで。ありがとうございます、教えていただいて。

■司会・真砂 徳子さん

実際の作業されている方に、こういった詳しく伺うと事情がわかると、お互いそういうところは了解の上でっていうことですよ。

冬と、「ゆき」と一緒に暮らすという事は、というふうに思います。

では三つ目の疑問になります。

「Q.除雪作業の判断は誰がしているのですか？」

という、ご質問・疑問です。

原さん、お答えいただけますでしょうか？

■原 文宏さん

札幌市の担当の方とかのほうがいい

のかもしれないんですが、私の知っている範囲でお答えしますね。

今、札幌市はマルチゾーン方式の除雪体制を敷いていて、長くやってるので、皆さんそれは当たり前とってるかもしれませんが、以前はそうではありませんでした。

以前は、工種別、要するに車道除雪、歩道除雪、運搬排雪、それから雪捨て場というように除雪の工種別に全部企業が分かれた除雪体制でした。



ですから、時々、歩道除雪が行われた後に車道除雪が入って、除雪した歩道が埋まるみたいな事も起きていました。

しかも、道路延長が長いものですから、除雪の不備な箇所や吹き溜まりなどの連絡を受けても、その場所の特定と、その後の対処に時間がかかることも多々ありました。

そこで、そういう工種別の除雪体制を改めて、地域（ゾーン）ごとに工種別の企業をセットで配置して、そこに除雪センターを設置して各地域の除雪体制をコントロールする方式に大きく変更したんですね。

私は、非常に良かったと思います。工種ごとの情報の齟齬がなくなりますし、不備があったときの対応も早くなるほか、担当する地域への理解が深まることで、地域住民とのコミュニケーションも容易になったと思います。

さて、除雪車が出動する基準ですが、連続した降雪が10cmを超え、車両通行に支障があると予想される場合という規定はありますが、実は札幌の中でも地域によって降雪量も路面状況も大きく異なります。

昨冬の札幌の降雪量の代表値は、中央区北2条西18丁目の札幌管区気象台のデータになんですけども、代表値は平年値（過去30年の平均値）よりも、ほんの少し低いんですね。だけど、豊平区、白石区、厚別区などは、過去10年の平均値より50%程度も、多い状況だったようです。

このように札幌って一概に言ってもかなり地域で違いますので、10cmという出動基準はありますが、地域の状況にあわせて最終的には地域にある除雪センターで、意思決定されて除雪されていると理解しています。

■司会・真砂 徳子さん

はい。

今、地域の状況に合わせて除雪を行っていくというお話でしたが、そういったシステムというか、決まっているって事だったんですけど。

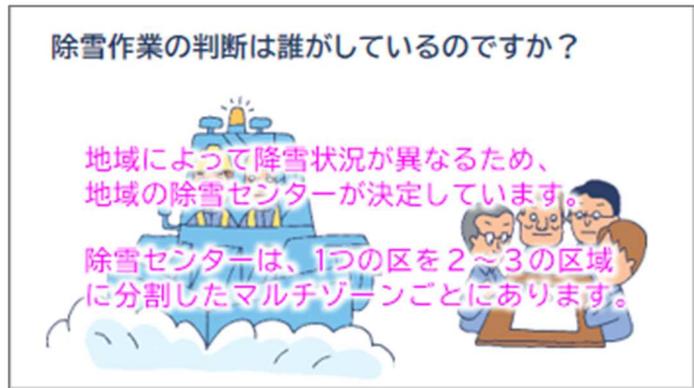
そのあたり、宮浦さん詳しくお話いただけますか？

■宮浦 征宏さん

今、地区に分けてるっていうお話の中で補足させていただきますと。

10区をですね、2企業体か3企業体で、23のマルチに分かれてまして、各それぞれのエリアで、完了させているっていうのが今の現状になりまして。

その各エリア毎にそれぞれですね、24時間でセンター長と当番の方いらっしゃいますので、そこで各場所場所で降雪量確認しまして、10cm以上を超えるだろうっていう事で、その日の夜の出動を決定しているっていうのが今の現状でありますね。



■司会・真砂 徳子さん

先程裏側で、気象データを皆さん念入りにご覧になられてっていう判断されるって話でしたけれども、各地域毎に細かくですね。

■宮浦 征宏さん

もちろん各マルチごとの、23区のマルチがありまして当番がいて、そこでSNET（エスネット）っていう色々な気象台のデータを基に、その日の降雪量が5cm～10cm、10cm～15cmだとかっていうFAXが届きまして、そのデータを基に、それも各企業体のそれぞれの企業にもFAXが送られまして、今晚はこれくらいだって予想は大体夕方には届きますので、それを基に各企業、または従業員だとか、オペレーターの方に、今晚はこれくらいまであるかもしれない、ないと思うっていう判断で、その日の夜を過ごすっていうような感じになってます。

なかなかそれが明らかに今晚15cm～20cmっていうふうになれば、今晚出れるなっていう予想と、心構え出来るんですけども、なかなか5cm～10cmっていう予報が意外と札幌市の冬の気象で言うと、意外と多いんですけども。そうなるとなかなか我々も管理する会社として従業員の伝え方としても、このぐらいいだから出るかもしれない、でもわからないっていう。

なかなかそういう判断で、特にお酒を飲まれる方に関しましては、夜出るんだろうか？出ないんだろうか？っていういろいろ判断しながら。

いや、多分出る、でもわからないから今日は控えてほしいって判断をしながら、我慢していただいて、やっぱり朝降らなかつたねっていう事も度々あるんですけども、そういう事も何度か経験しながら、空と天気予報見ながら、毎日過ごしてるっていうのが我々の冬の普段の生活の、生態でありますね。

■司会・真砂 徳子さん

市長、作業に当たってる方ってかなりの緊張感と、自覚を持って生活もされているといますか、責任をもって作業されてるんだなという事がわかりますよね。

■秋元市長

そうですね。

やっぱり雪の降り方っていうのは本当に自然相手ですから、天気予報などでいろいろな低気圧がくるっていうような予報がありますけど、風向きで結構札幌市内で大雪になるか雪が降らないかっていうのが西風になるか北側から風が入るかによって変わっちゃうので。

実際は、その時点になってみないとなかなか、雪が降る降らないっていうのは判断つかないんですね。

ですからある程度、予報があった時には皆さん待機して、雪の除雪っていう事になりますね。

ですから、除雪はそういう形で、降った状況に応じて、臨機応変に対応していただくという事になりますけど。

先程話した排雪ってのは、少しまとまった雪があって作業していく事なので、これは急にやろうとしてもなかなか出来ないという事なので、さっきちょっとお話したようにその体制を事前に準備をしておく、心がけておくと。

で、一定程度の雪が降ったと、積雪がきていて、道路幅も狭くなるという事になると、今までの時期1月の中旬とかっていう時期にこだわらず、やっていこうと。

先にやっていく事で、道幅も例えば2車線の道路が1車線っていう事になってしまって、そこにどつとくると、もっと狭くなるっていう事になりますから。

そういう意味では、そういう排雪の体制っていう事を少し事前に準備をしていくという事です。

ただ、日々の降り方はさっきも言いましたように、その日の降り方によって、皆さんかなり緊張しながら、データ、予報なんかも持ちながらやっていただいて。

なかなか悩ましい作業に従事してもらってるんだなど、こんなふうに思います。

■司会・真砂 徳子さん

そうですね。

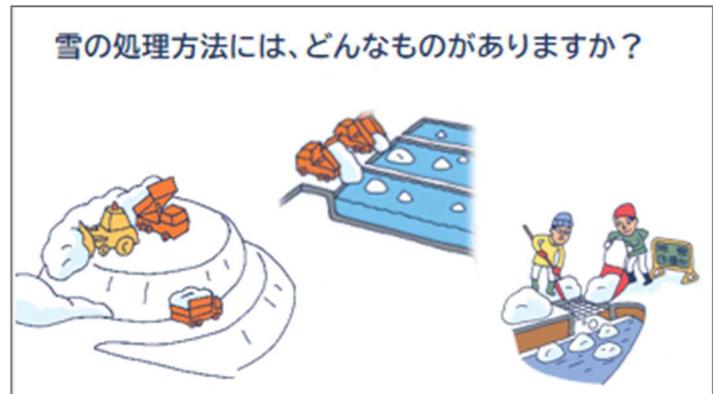
判断も悩ましいところなんだなという事がよくわかりました。

では、続いての疑問になります。

今、排雪のお話もありましたけれども、原さん。

「Q.雪堆積場以外の雪処理方法はどうななものがありますか？」

という疑問が来ておまして、教えていただけますと、と思います。



■原 文宏さん

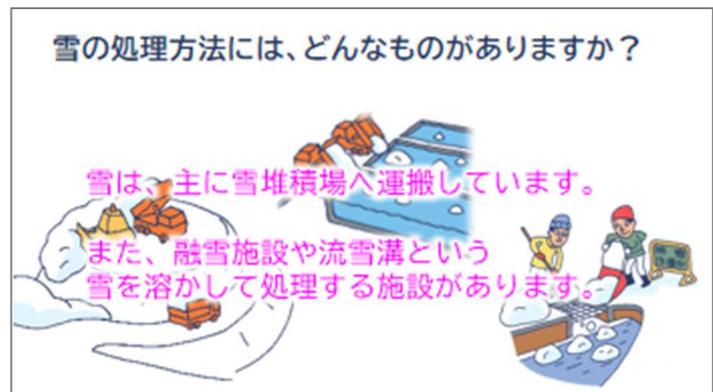
雪処理という部分で、基本はまず雪堆積場だと思います。

運搬排雪をして雪堆積場に運ぶという方法で、雪処理が行われています。

元々、雪堆積場は、市の中心部の河川沿いに集中してありましたが、現在は郊外に展開しています。

理由の一つは、運搬排雪の車がどん

どん都心に集まってきて交通渋滞の原因になることです。あと、河川敷を使っているので、使う前にビニールシート等で地面全体を養生して、芝生等を保護した上に、そこに排雪を堆積します。雪が融けた後、皆さん見たことあるかどうか分かりませんが、ものすごいゴミが残ります。ダンプトラックで何回も運ばなければならない量で、河川の水質や周辺環境に影響を与える可能性があることも、郊外の河川敷以外の場所に移転し



た理由です。

そんなわけで、雪堆積場はどんどん郊外に移転しているので、運搬距離も長くなっていますで、一方で二酸化炭素の排出量が増えることは好ましいわけではないのですが、都心の交通渋滞緩和と二酸化炭素の排出減、河川の水質や周辺環境への影響の減少を考えると、ベターな選択と私は思っています。

雪堆積場以外の雪処理っていう事になりますと、札幌市で行っているのは雪を融かす「融雪槽」と河川等の流水を使って雪を運搬する「流雪溝」があります。

そこで知っておいていただきたいことがあります。例えばママさんダンプ1杯の雪を15m移動させるのに必要なエネルギーを「1」としますと、それを小型のロータリー除雪車で15m飛ばすと、かかるエネルギー量が15倍になります。さらに、ロードヒーティングで融かすと、必要なエネルギー量は約2万倍になります。要するに雪を融かすと、必要なエネルギー量が極端に増えるということです。

札幌市内にいくつか融雪槽がつくられています。化石燃料を使うと費用がかかる上に二酸化炭素の排出増にもつながることから、比較的、水温の高い下水処理水を使った融雪槽が設置されています。

また、流雪溝は道路脇の地下に水路を埋設して流水を通して、道路面の投雪口か人力で雪を投入して、水流で雪を移動する雪処理方法です。札幌市内にいくつか整備されています。ただし、河川の水には「水利権」というものが設定されていて、流雪溝用の水を確保することは、中々、難しいのです。ですから、現在、設置されている札幌市内の流雪溝に通水されている水も、ほとんどが下水処理水です。

つまり、雪処理の方法として、融雪槽や流雪溝もありますが、条件がそろう場所に限定された方法で、基本はやっぱり雪堆積場かなと思います。

■司会・真砂 徳子さん

今、原さんのお話にも少しありましたけれども、流雪溝は地域によって設置されている所もあるという事ですね。

はい、映像がございまして、モニターご覧下さい。こちら、新琴似に設置されている流雪溝という事です。

■原 文宏さん

ここも下水処理水を使っていると思います。元々、下水処理水は水温が高いので、雪を運びながら融かしていくメリットがあります。

どっちみち下水処理水は最後、河川に流しますが、いったん河川に入ると水利権が発生するので、その前に、流雪溝を設置して市街地を通して、市民の皆さんに雪を入れていただいて、雪処理施設といて利用しているわけです。



■司会・真砂 徳子さん

なるほど。

■原 文宏さん

排雪用のトラックではないので、二酸化炭素問題やエネルギーコストの面でも有利な雪処理方法ですが、どうしても場所が限定されることと、最初の建設コストが高いのが難点ですね。

■司会・真砂 徳子さん

そうですね。

全域にはまだないって事ではありますね。

■原 文宏さん

そうですね。

札幌市全域でやるのは、なかなか難しいと思います。

■司会・真砂 徳子さん

新琴似では地域に根付いているようで、何かこう使っていい合図がランプか何かでわかるようになっていて、地域の皆さんそこに注目して、雪の処理をされているというふう

に伺っております。

では5つ目のいただいた疑問です。
「Q.つるつる路面は、何とかありませんか？」

はい、この疑問に市長、よろしくお願ひ致します。

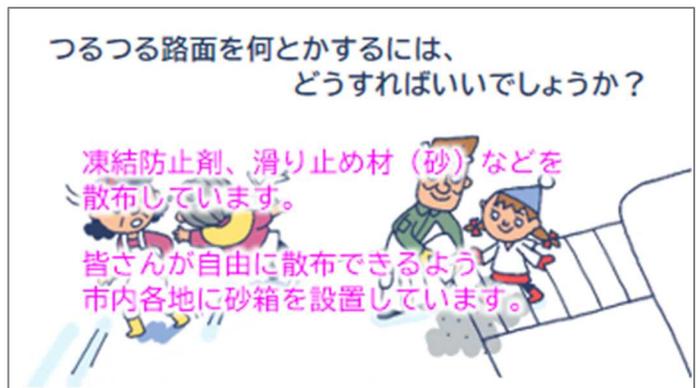
■秋元市長

A.どうしても冬は、雪が降って、日中融けて、凍って、ってというような事になりますので。

どうしてもつるつる路面、特に横断歩道なんか出てくるって事ですね。

幹線道路なんかは金属の腐食を抑える為の塩化ナトリウムというような、融雪剤っていうのを撒きますけども。

歩道なんかは砂がですね、滑り止め材という事で、よく歩道の横にこういう BOX 置い



であるのご覧になった方は多いと思うんですけど。

あれは、企業さんから寄付をいただいた箱の中に滑り止めの砂を入れております。

そういう意味では、例えばつるつる路面とかの時にはですね、皆さんにご協力をいただいて、その砂箱から取っていただいて、撒いていただくというような事に協力をしていただいているっていうのは実態です。

また、例えばコンビニさんとか、いろいろな企業の方にもですね、自分の会社の周辺っていう事を特にやっていただいたりなんかしています。

そういった市民の皆さんのご協力をいただきながら、交差点とかですね、対応していますので、是非、ご理解いただいて、気が付けば、ご協力いただければなど、こんなふうに思います。

■司会・真砂 徳子さん

はい。今、企業の対応というお話もありましたけれども、三浦さん。

コカ・コーラボトリングさんでは、滑り止めの砂を入れる為のペットボトルを札幌市に提供されている、という事ですね？

■三浦 世子さん

はい、そうですね。

ペットボトルの方も、提供させていただいております。他にも、子供達と共にペットボトルを使って、砂を入れて、実際に砂を撒くという。

仕事をさせていただいたりとか、シーニックバイウェイの交流とかいろいろとやらせていただいております。

あと、もうひとつは、やはり私達も北海道企業なので、しっかりとその地域地域に根付いた活動をさせていただきたい、という事もあり、私達企業が、清田区にあるんですけども、その清田区の近くの、国際大学の学生さんと共にですね、一緒にご高齢の皆さんのおうちを、ボランティアで排雪、ですか？除雪ですね。除雪の方ですね。させていただいております。

そういった活動も、皆が楽しく集まっているんな所のコミュニティを作りながら、除雪の仕組みっていうのが出来るといいのかな、と思っております。

■司会・真砂 徳子さん

みんなで力を合わせて、この雪を乗り切りましょう。というような、そういった取り組みって事ですね。

はい、ありがとうございます。

■原 文宏さん

ちょっとごめんなさい。

一言だけつるつる路面について、発言させてください。私、つるつる路面の路上転倒の研究をずっとやっていて。以前、調査研究の一環で転倒シーンの撮影を札幌市内で実施したことがあります。

その転倒映像を観察していて、是非やめていただきたいのは、冬場、青信号が点滅している時に慌てて渡らないことです。とにかく、信号が点滅している横断歩道に駆け込んで、ものすごい勢いで転送して頭や身体を打って、なかなか立ち上がれない人の映像が結構いっぱいあります。

点滅している信号を見て、急いで渡りたい気持ちはわかりますが、本当に危ないので、それはやめていただきたいと思いますね。

■司会・真砂 徳子さん

はい。

今、冬の道路の事情をちゃんと、了解の上で、やっぱりチカチカで渡るのは危険だと、私も思いました。

皆さんも、是非お気をつけ下さい。

多いんですね？多いんですね。

■原 文宏さん

転倒場面の映像では、そういう方が多いんです。

■司会・真砂 徳子さん

わかりました。

肝に銘じて気を付けましょう。

では、ここです。会場の皆さんから寄せられましたご質問を、いくつかご紹介させていただきます。

まず最初の質問です。

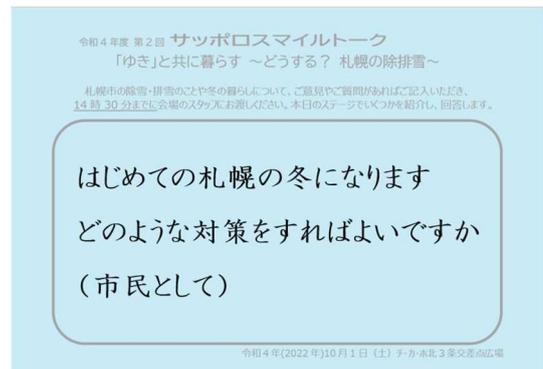
「Q.初めての札幌の冬になります。どのような対策を市民としてすればよいですか」というご質問なんですが、まず市長、お願いできますか。

■秋元市長

A.市民の方としてやっていただけるということ

で言いますと、先ほどからお話させていただいてるような、除雪とか排雪という仕組みを、どういうふうに行っているのかということを知っていただいて、そういった状況をまず理解していただきたい、ということが一つあります。

それから先ほどのつるつる路面なんかの時は、ご自身の体を守るためにやはり信号が点滅してるときには走らないとか、ご自身の体を守るとか、そういったことについてできることをやっていただけたらと思いますし、それと先ほど原さんの話の中で、海外だとひとつの気象災害という状況の中に雪というものもあって、本当に大雪のときになると、台風大雨とおなじようなかたちで学校にいかないとか、会社に行かないというようなことが、社会的に、ルールができていくんですけど、日本はまだそこまでいってなくて。台風だと学校を休業にしますとか、会社を休むといったことがあるんですけど、どうし



ても雪ですと、冒頭話があったように普段の生活とあまり変わらないということがあるので、なんとか出勤しようということになるんですけども、それがまた大渋滞につながってしまうということもあるので、このへんのところは、企業の皆さんとか市民の皆さんの一つのルールというかね、大雪の時には、出勤をすこし遅らせるとか時間ずらすというようなことも協力していただくようなことをですね。議論していければなあとこんなふうに思っています。

■司会・真砂 徳子さん

ありがとうございます

ご質問の方は、初めての札幌の冬ということですので、どうでしょう皆さん、一市民として、ご自身でこの冬を乗り越えるための心がけて、なにか良い案ってご紹介いただけることありますか？

■原 文宏さん

そんなに大変なことになるみたいに思わないで、ぜひ楽しんで冬を過ごしていただきたいなど、私は思うんですけどね。確かに除雪はたいへんですけれども、雪のあることで楽しいこともたくさんありますのでね。あんまりネガティブな方向ばかり捉えないですね。私自身は雪とは戦わない方向でいますね。

■司会・真砂 徳子さん

なるほど。ともに生きる方向で。

というご意見でした。

ご質問いただいた皆様、ありがとうございます。

では、次の質問に参りますね。

「Q.除雪のブルドーザーの技能向上は？」というご質問でした。

これは宮浦さんに伺うのがいいでしょうかね、おねがいします。

■宮浦 征宏さん

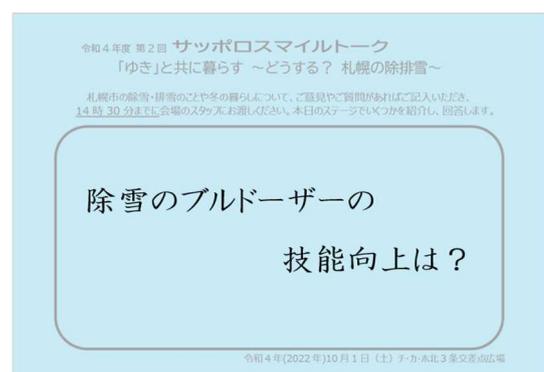
技能向上？

■司会・真砂 徳子さん

技能向上・・・現状はってことなんですかね

■宮浦 征宏さん

A.こればかりはですね、なかなか教習所で教えていただけるわけでもなく、現場で働いている人たちも常に日々の経験をもとにですね、すこしずつみなさん努力しながら作業しているってのが現状であります。なかなか誰に教われることもなく、会社の中で先輩に教わり、周りを見ながらだとか、自分で練習を少しずつしながら対応してるのが



現状ですので。

なかなかこれに伴って作業を皆さんと一緒に練習できる機会ってのは今までなかったんですけれども。最近ですね、札幌市さんと協力をしましてですね、オペレーターの養成講習というものをですね。札幌市さんの土地といろいろな機械を借りてですね。講習会を行ったりとか今していますので、そういうことで、新しいオペレーターを少しずつ継承、向上ということを少しずつやっているというのが現状でございます。

■司会・真砂 徳子さん

イベントの冒頭で、スクリーンのほうでご覧になった方もいらっしゃると思うんですが、大変な技術が必要な作業でいらっしゃいますよね。

それは継承していかなきゃいけない、という問題もあって。で、この降り方がまた想像できないものもあってという中で、着々とそれに向けて努力されてるというお話でした。ご質問された方、よろしいですか？

■宮浦 征宏さん

追加しますと、どうしてもですね、機械の作業の免許ってのは一つしかなくてですね。一概に除雪といっても、除雪が作業できる資格をひとつとってしまえば、作業することは可能なんですけども、普段皆さんが見られている除雪車のショベルローダーだけで除雪しているわけではありませんので、除雪車がありまして、除雪グレーダっていう真中にこう刃がついている機械もそうですし、排雪するときには雪を詰め込むロータリー、歩道を除雪するほうのロータリー、またそれをダンプトラックに詰め込むほうのバックホーという機械もございまして、みなさんそれぞれ機械がちがって、作業も手順も全然違うんですけれども、それを一概に一つにまとめると、同じ資格でできることはできるんですけれども、それぞれ技術の中身が違いますので、それぞれのオペレーターがそれぞれの技術を習得して作業しているというのが現状であります。

■司会・真砂 徳子さん

プロフェッショナルのお仕事ですね。ご質問された方がどの角度で何が知りたかったかというのを詳しく伺えたらまたいろんなご回答ができるのですが。

もしよろしければこのご質問された方。大丈夫ですかね。

■宮浦 征宏さん

もし補足するのであれば、地域によって我々作業を常にしているのですけれども、やっぱり皆さん市民の見る目というのが本当にしっかりされているというか、もう目が肥えてらっしゃいます。

ですので、我々の会社のほうでもまた新しい従業員が入ったり、たまたま高齢で辞められた方がいらして、そこに新しいオペレーターが従事する場合も当然ありますけれども、そうなるとうやはり前のオペレーターが良い悪いという表現の仕方は良くないですけども、そのオペレーターによっては、今年の除雪はどうなっているんだとお叱りを受けることもあります。

当然それは従業員として資格としては十分持って作業されているんですけども、当然住民さんの目というのは十分肥えていらっしゃると思いますので、やっぱり例年と違うというのは意外ともうすぐ感じられる方もいらっしゃると思いますので。

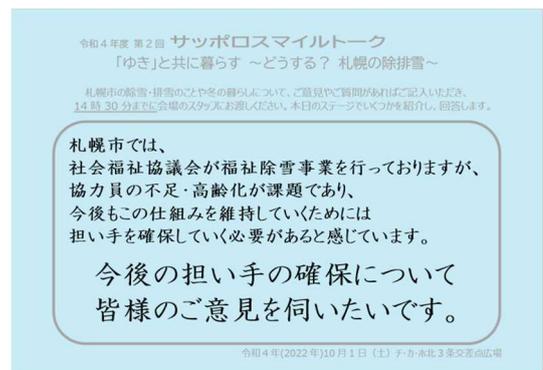
そうとなかなか思い通りの除雪ができていないのかなと我々もちょっと反省するところあるんですけども、そこまで皆さん目が肥えてらっしゃる部分もあるので、そこに負けないで我々の技術を継承して除雪をしていきたいと思っています。

■司会・真砂 徳子さん

いや本当に大変な技術ですね。今日冒頭でご覧いただいた映像は、札幌市のYouTubeでもご覧いただけるんですよ。そちらのほうでも確認いただければと思います。ご質問いただきました方ありがとうございました。

では続いての質問に参ります。

「Q.社会福祉協議会が福祉除雪事業を行っていますが、協力員の不足が課題であり、今後の担い手の確保、若い世代、中堅世代が参加しやすくすることを含めてについて、皆さんのご意見を伺いたいです。」というご質問だったのですが、これは市長に伺ってもよろしいでしょうか。



■秋元市長

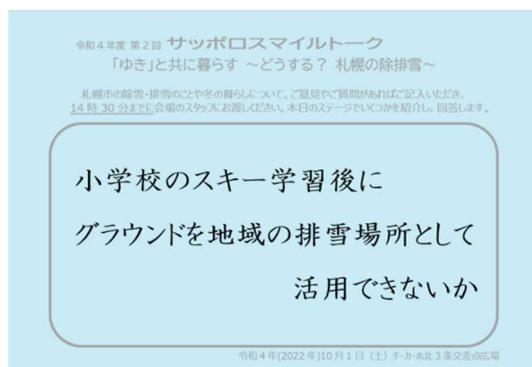
A.除雪のボランティアの方とかですね、福祉除雪をしていただけるそういう担い手の方の確保というのがなかなか難しくなってきましたし、実際の除雪作業全体を担っている、これはさっきの除雪・排雪含めてですね、事業者の方の従事している方自体もやっぱり高齢化してですね、確保が難しくなっているということがあります。今後若い世代の人たちにどう、そういった協力をしていただけるのかというのはですね、これはもう全体としてやっぱり大きな課題ではあります。

で、なかなかこう妙案という形ではないんですけども、例えば福祉関係、ボランティアの方だと、大学生の方、さっきもちょっとお話ありましたけれども、地域の大学生が協力していただいているというようなこともありますので、こういった大学などにもですね、あとそれから中学生高校生とか、まあ高校生くらいですかね、通学の前にちょっと福祉除雪とかやっていただけるという方もいらっしゃるの、そういう若い人たちに協力を呼び掛けていきたいというふうに思います。

■司会・真砂 徳子さん

はい、ありがとうございます。ご質問いただいた方よろしいでしょうか。

ではこちらがご紹介する最後となりますが、これご提案という形になるのでしょうか。
「Q.小学校のスキー学習後にグラウンドを地域の排雪場所として活用できないか。」というご提案なんですけれども、これも市長に伺ってよろしいでしょうか。



■秋元市長

A.場所によって、地域によってなんですけど、例えば先ほども言いましたように春先の雪解けが遅くなると子供たちのグラウンドの使用というのがなかなかできないというようなこともあるので、理解をいただくということが前提なんですけれども。

例えばPTAの方々や春先雪割りなんかを協力するので、雪をグラウンドの中に捨てるということについて理解をしてもらおうと、学校としても了解しますというようなところもあります。

ですから皆さん協力して例えば春先子供たちの教育活動に支障がないということであれば、そういうことを進められるというふうに思いますし。

例えば今年の、まあ昨年度の冬のようにですね雪堆積場がやっぱり遠くなってきて運ばなくて全体の効率が悪い時、こういった時にはですねやっぱり緊急的に大きな公園のグラウンドだとか、あるいは学校のグラウンドに雪捨て場として一時的に使うというようなこともですね、していかなければいけないと思っているので、まあこれも事前に例えば大雪の時はそういった協力を得られるとか、まあ普段でもいいですよというようなところとですね、いろいろなそういう地域の方とお話をして雪堆積場としても使えるようなことをちょっと広げていきたいなど、そんなふうに思っています。

ただまあ使う方もいるのでその辺の理解を得られるというのが前提になりますけれどもね。

■司会・真砂 徳子さん

このご提案は選択肢の一つとして考えうるものであるということでもよろしいでしょうかね。

はい。ありがとうございます。たくさんご質問いただいたのですが4名の方をご紹介させていただきました。

ご質問お寄せいただきました皆様ありがとうございます。皆さんからたくさん質問などありましたけれども、ここでですね市長、雪対策のことで皆様さんに知ってほしいことがありましたら是非お願いしたいんですけれども。

■秋元市長

昨年度のようなですね除雪の状況で行くと、先ほども言いましたように反省を踏まえていろいろな対策をとっていくということで、日常的な生活に影響が大きく出ないように対策をしっかりとっていくということなんですけど、関連の予算案で言いますと、平年ベースで200億。昨年度のように大雪の時だと300億という大変大きなお金がかかるという

こと。平年ベースの200億ということになると小学校が9校くらいできてしまうような金額なんだということを皆さんに理解をしていただいて、出来るだけ効率よくやっていかなきゃいけないというふうに思ってますけど、それだけのお金がかかってやっている作業だということですね。

一方で市民の方の要望の中では、やっぱり除雪に対する要望ってのが非常に大きいんですよ。

それからまあ中にはよくやっているという評価をしていただいているというところもあります。そういう意味では、非常に要望も多いけれども非常によくやっているというところがあります。そういう意味ではいろいろなかたちでですね、これから少子高齢化になっていきますので、作業を担う人たちの確保をしていくのが大変だということですね。お金の問題以上にその課題が大きいということを皆さんに理解していただければというふうに思います。

■司会・真砂 徳子さん

先ほど控室のほうでは、民間で除雪排雪の契約をされているお宅なども増えてきたというお話も伺ってまして。

まあこういった異常気象って普通は何十年に一度みたいな話になりますけれども、もうそうは言えない、まるで毎年のようにというような状況で、こういった想像もできないような雪が降るような冬になってくって中で、たくさんさまざまな人が知恵を出し合って協力体制も徐々に出来上がってきているんだなあ、なんていうふうにも思っていました。助け合いとか理解しあうって大事ですよ。雪国で暮らすっていうのは。

では、ここからはですね、少し視点を変えまして雪国での暮らしの楽しみ方、雪とうまく付き合うコツ、ヒントなどを伺ってみたいと思いますね。

まず三浦さんには、とても冬が大好きで、雪が降るとワクワクするというふうに伺っているんですけども。

札幌の魅力を、冬好きとしてどのようなところにあると思われませんか。

■三浦 世子さん

ありがとうございます。なんかあのちょっと過剰になっているかもしれないですけど、でも本当に雪は好きです。家の近くにスキー場があるっていうのもあるんですけども、やっぱり小さいころからスキーですとかスケートというのに勤しんできたもので、なので雪自体はやはり資源だというふうにとらえています。

またですね、いま進めているやさいバスという事業がありまして、そちらが農家さんたちとですね、いろんなお話をすることがあるんですが、農家さんの中では実際に雪をためて雪室っていうのを作って、皆さんご存じかと思うんですが、雪の下キャベツ、甘いキャベツですね。ですとか、あと越冬のジャガイモ。これは、普通の新ジャガイモと越冬ジャガイモって結構、ずいぶん違うようで、レストランのシェフとかに言っていたくと、新ジャガももちろんおいしいのですが、越冬ジャガイモはざらざらした感じがほとんどなくて非常に糖度が上がっているそうなんです。なのでこういった北海道ならではの、雪国ならではの食の豊かさっていうのを育てているのも実際雪なんだなっていう

ふうに改めて感じております。

なので雪国の人ってなんか北海道の人っておおらかだよねっていうふうに道外の方からよく言われるんですけども、私たちもその雪の下キャベツじゃないですけど、養分を蓄えて、あったかい気持ちで過ごせたらいいなというふうにいつも思っております。

■司会・真砂 徳子さん

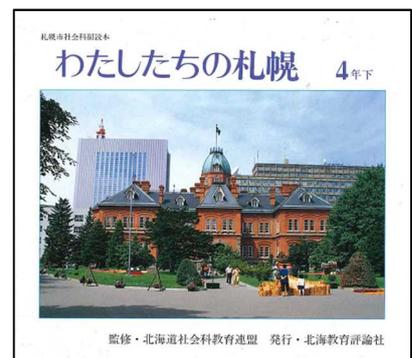
たしかに雪による恩恵って本当にたくさんあるんですよ。原さんは雪と楽しんで暮らすんだと先ほどおっしゃっていましたが、この雪とうまく付き合うコツみたいなのがあったら、原さんが実践されていることも含めてお気づきの点があったら教えていただけますか。

■原 文宏さん

結局のところ除雪や雪害の問題も、雪を楽しむこと含めて、そう簡単ではないということです。ですから、基本は雪なり、そういう気候なりっていうことを、住んでいる私たちがよく知ることがとっても大事です。知らない状況で、例えば除雪の予算とか、それにかかるエネルギーだとか、それからCO2だとか、という議論ができないと思っています。

我々のライフスタイルも考えなければなりません。以前、札幌市民が写っている古い写真から、冬の服装の比較をしたことがあります。比べてみると、圧倒的に以前より私たちの冬の装いは軽装化しています。つまり、軽装化しても生きていけるようになっていきます。なぜかって言えば、もちろん軽くて防寒性に優れた衣料品が開発されたこともありますが、地下鉄や地下街等のインフラ整備も大きな理由です。そのことは、悪いことではありませんが、その背景にあるコスト、エネルギー、環境等の問題と、私たちのライフスタイル含めて、考える必要があると思っています。

そこで、やっぱり教育がとっても大事だと思っています、私も20年くらい前から小学校の先生方と雪や寒さの学習教材づくりや授業実践を一緒にさせてもらっています。その中で、札幌市が先進的だと思っているのは、今から10年くらい前に札幌市の教育の柱として、「読書」と「環境」と「雪」の3つを据えたことです。札幌市全体で雪を小学校で教えることを決められたことです。ここに札幌の小学生が全員使う「わたしたちの札幌」という副読本があります。これ4年生の下巻ですが、その中に「雪と暮らす」って単元があって札幌市の小学生は毎年4年生になると5時間の除雪の授業を受けます。



最初に授業を受けた小学生はまだ成人するかしないかだと思いますけども、今後は中学生、高校生、さらには社会教育含めて取り組む体制をつくることで、最終的には雪とうまく付き合うことができるように思いますので、ここに市長さんがおられますので是非、今後とも教育には力を入れていただきたいと思います。雪と暮らすっていうことを私たちが生涯を通じて学び、理解を深める環境を作っていくことが最終的には雪とともに暮らすということになると思いますね。

■司会・真砂 徳子さん

なるほど。宮浦さんも子ども時代にご覧になったりは。

■宮浦 征宏さん

いま原さんのほうから、4年生の授業でっていうことなんですけれども。

うちも一企業として、小学校の3校ばかり札幌市さんとの共同で、授業の一つの1時間の枠ですね、除雪車を学校まで持ち込みまして、除雪車こういうふうに動いてるんだよっていうふうにグラウンドで実際に動かしてですね、児童に除雪車に乗っていただくっていうのを一緒にさせていただいています。そういうことをずっとうちの会社のほうで7~8年続けています。

ただ、それができてる学校とできてない学校もたぶんあるのかなって思いますので、それがやっぱりより広く我々企業がですね、そういうふうに協力して小学校の授業にですね、全部が全部できるかわからないんですけども。各学校に重機をもって実際にこう体験していただくっていうのもより知っていただけることもわかりますし、より我々の仕事としても知っていただくいい機会になると思っていますので、いまやっていたいでいる最中ではあります、それも。

■司会・真砂 徳子さん

子供さんの反応とかいかがですか。

■宮浦 征宏さん

本当にもう目を輝かせてみていただいと嬉しいなと思うんですけど、まあただやっぱり当然親御さんの中で結構見解もありまして。

機械に乗せてしまうと機械に慣れてしまってますね。普段作業しているときに、あ、あれ乗せてもらった機械だって近づかれると困るっていう懸念もあるんで、それはくれぐれも音も聞こえないし視界も悪いんだよっていうことをわかった上で、作業しているときは近づかないようにねって言うようには、その時に授業の一環としてやってはいますけど、本当に子供たちはみんなこう楽しそうにみていただいといます。

■司会・真砂 徳子さん

その楽しい中でこの車が、この人たちが、自分たちの暮らしの中でどんなふうに通っていてくれるのかってこともきっと肌で感じて帰られるんでしょうね。すごく大きいことですよね。

あの今、机上の教育それから体験の教育なんて話もありましたが、市長、やっぱり雪国での暮らし方についてっていうのは本当に小さい時から肌で感じて自分たちは雪国で暮らしているんだという自覚ってすごく大事ですよ。

■秋元市長

そうですね、先ほど原さんからお話しいただいたように小学4年生で、そういう教材で、やっぱりこう雪というものと一緒に暮らしていくということこれは避けて通れない

ので、そこをやはり自分たちの街のひとつの特徴としてね。理解をしてもらおうということと。

先ほど場内のご質問ありましたけれども、札幌に初めて来られたという方で、原さんもおっしゃってましたけど、あまり心配することばかりの議論にちょっとなりましたけど、昨年度の雪の降り方ってのは、そういうことがあるかもしれない、また起きるかもしれないということを前提として、僕たち行政の立場としてもしっかり準備をするということはもちろんそうなんですけど、毎年毎年そういう年ばかりということではないのと、冒頭ちょっとお話しましたように、雪があることで春先に徐々に溶けていって、いわゆる天然のダムのような状態に札幌はなってますね。

ですから非常にきれいな水、冷たい水、まあ水道水からね、水道から水が飲めるような街だっていうことはやっぱり水源がしっかりしているということです。

これもやはり仮に雪がなかったら、年間の降水量ってそんなに多くないので、雪がもしなかったとしたら。

そうすると水不足で大変な生活になっているかもしれないという意味ではですね、単純に近くにスキー場があってスキーが楽しめるということだけではなくて、やっぱりその生活の中で雪があることでプラスになっているという面もあるということなんです。

そういったことを生活の中で知っていただきながら、そしてやっぱりこれだけ200万人の人口を抱えている街ですから、いろいろな社会活動だとか生活に影響が出ないようにしていく体制っていうものも、しっかりとっていくということですね。これは我々がしっかり考えていく、こんなふうに思います。

■司会・真砂 徳子さん

はい。ありがとうございます。

どうでしょう三浦さん、今日は市長もいらっしゃいますしね、一市民としてなんかこういった、去年は災害級といわれるまでの大雪でありましたけれども、何かこうご提案、こんなのあったらいいな、必要だなと思うことがありましたらここで話しいただけますか。

■三浦 世子さん

そうですね。去年は本当に災害レベルという雪の降り方だったんですけど。

実際コロナ禍であるということもあって、リモートワークが会社のほうで実は進んでおりました。

もちろんすべての企業の方だったり、職種の方がリモートワークができるとは思わないんですけど、やはり雪があまりにもひどい時、災害レベルの時があれば、企業であればリモートワークの導入に切り替えるとか、あとその学校であればリモート学習に切り替える日というのがあってもいいのかなというのが一つ思います。

あとですね。もう一つあるんですけど、ちょうど企業に行こうと思った日がドカ雪の翌日だったんですね。そうしたらもうバスが、私バスで通勤しているんですけど、全線運休というのを初めて見まして。全線運休となったらもう歩くしかないということだったんですけど、その歩くときは良かったのですが、今度一部開通しましたとなった

ときに、じゃあどこにいまバスがいるのかっていうのが、ある程度アプリケーションか何かでみんながわかりやすい状況で、待つこと自体はいいんですが、どのくらい待てばいいのかというのがわかるようにしていただけると非常にありがたいなと思います。

■司会・真砂 徳子さん

たしかにそうですね。

そういった導入も、いまここでお話したことによって進むかもしれませんし、貴重な意見ありがとうございました。

では原さんには、海外での雪対策などにもお詳しいと伺ってますので、この札幌市に参考になりそうなことが何かありましたらお願いできますか。

■原 文宏さん

海外の雪対策の事例の前に、その災害レベルっていうのをどこに置くか、日常をどこに置くかということ、明確にする必要がありますね。これは、政治的というか世論も含めた皆さんとのコミュニケーションのなかで、決めていくことだと思いますが、例えば、札幌市民が納得して災害レベルにも対応できるように除雪体制をつくりますという意味決定がされ、ほかの予算も全部削っても雪対策やるという選択もあるわけです。まあ、そうはならないと思いますし、30年に1回来るような大雪に対して常に備えていることはコスト的にもマンパワー的にも無理だと思いますので、日常的な備えを、どの程度にするかをきちっと決めなければならないと思います。

その上で、それ以上の時は、災害レベルとなりますが、ある程度私権を制限してでも雪対策を優先するような方向にしていくべきだと私は思っています。

実際、アメリカでは、一定以上のウィンターストームが予想される時には、災害警報のようなものが発令され、事前に指定されている緊急除雪ルートに車を駐車していたら、有無を言わずレッカーされ、罰金まで取られるルールを取っている都市も少なくありません。私も、異常な降雪や吹雪の状況では、私権を制限して除雪を優先させることは、必要だと思います。また、自分たちの仕事や生活の仕方も変えて対応する。そういうルールを市民や企業との間に作っておくことがとっても大事で、そういった部分は海外の事例は比較的はっきり決めている都市が多いので参考になると思います。

■司会・真砂 徳子さん

参考にして札幌に活かしていく。また、札幌でできたシステムそのものが海外の参考になるということも今後たぶんたくさん出てくるんじゃないかなというふうには思いますね。

今日は宮浦さんには、除雪をされる立場でいろんなお話を伺いたいということでご登壇いただいておりますけれども、先ほどちょっと伺いましたが、除雪情報を出していただく、出すことは大事なんですけども、それによっていろいろなご苦労もあるということ伺ったんですけども、そのあたりも是非市民の方と共有出来たらなと思っております。いかがですか。

■宮浦 征宏さん

いまいろんなネットとかテレビ局のシステムで、今晚出る出ないっていう情報っていうのは提供して我々も動いてるところではあるんですけども、それ以上の進んだ情報をいまだどうするかっていうのはたしかに我々のいろんな課題ではありまして、それぞれ各、極端な言い方したら1台1台にですね、GPSをそれぞれにいまそれなりについて動いてはいるんですけども、それをじゃあどこまで開示して市民の皆様にはわかっていただいたほうがいいのかよくないのか、っていう問題もたしかに当然それはありまして。1台1台がいまだこ動いてこう動いてここに来るっていう状況が、そこまで必要なのかっていう情報もなかなかこう難しい問題で。

たしかにこうわからないよりはわかったほうがいいっていう部分はあるんですけども。

わかりすぎるのもよくないって言い方したら表現がどうかと思うんですけども、そこまで必要なのかっていう問題もなかなかありまして。

当然その冬やってる時間だいたいまあ夜出でですね、朝までに終わるっていう除雪の体制から行くと、だいたいこのところには何時頃に来られるっていうのは、当然もういま住民の方はだいたい周知されている状態でありまして。その中のもう当然いまこの情報しなくてもですね、各熱心な町内会にいらして交差点をひとつ曲がるとですね、もう夜中の2時ですので両サイドにスコップを持った方が待ち構えているようなことも、中には、場所的にはある。

それはもう熱心な方たちで、少しでも家の前の雪を置いてったら、すぐ固くなる前によけるといってお互い協力してという意味合いだと当然思うんですけども、そこまで夜中でも起きて玄関に立って出てこられるという方も当然いらっしゃると思いますので、それをリアルタイムにお知らせして、そこまで皆さんがする必要があるのかどうかという問題がなかなかあるものとおもいますので、そこまで必要ないのかなと思いますけども、当然この路線は今日出ます、この路線は排雪に入りますというある程度の大きな枠の情報としては必要にはなってくるのかなとは思いますが。

■司会・真砂 徳子さん

そのあたりは本当にわかりあってということですよ。情報大事ですけども、人の動くことですからね。はい、ありがとうございます。

宮浦さんの話にはご苦労がうかがえるなというふうに思ったんですが、まあその皆さんのご苦労を少しでも軽くするようなそういった方向性の提案も必要なのかなというふうに思いましたが、三浦さんいかがですか。

■三浦 世子さん

はい、ありがとうございます。本当に今日ですね、私参加させていただきまして、先ほどちょっとバスの接近情報とかっていうのがアプリで分かればいいなんてこと言いましたけれども。勝手なことをですね、言いましたけれども。

でもやっぱりもしかするとこれだけいろんなご苦労とあと自然の情報というのはつかめるようで、どうしてもつかめない部分もあるということ踏まえまして、何より大事な

のはもしかすると地域住民同士で協力し合う体制であったりとかコミュニティがしっかりと発達するように、小さなコミュニティ同士がしっかりと連携する仕組みを作ったりとか、会社だったり学校だったりに行かないことでペナルティになるような仕組みではなく、逆に心にもう少しゆとりを持てるような社会っていうのは、完成していけばもともと全員が無理なく過ごせるような、そういう雪の北海道っていうのが、札幌の住民の皆さんがですね生きやすくなるのかなというふうに感じました。

■司会・真砂 徳子さん

雪があるからこそ築ける豊かな暮らし方みたいなものを札幌がモデルになって発信できるっていう、そういった可能性もありますよね。

■三浦 世子さん

そうですね。あるんじゃないかなというふうに、まだまだね、つながり方っていうのが私たちちょっと疎遠になりがち・・・近所っていうのもつながってないようなところも出てきてると思いますし。

なのでそこはもう少し密につながれるような仕組みがあるといいかなと思います。

■司会・真砂 徳子さん

ピンチをチャンスに。

原さんはどのようにお考えですか。

■原 文宏さん

多分、雪問題っていうのは、個々の利己心と公共心が顕著に見えてくる問題ですよ。家の前を除雪したと思ったら、除雪車が通って、また雪山が家の前にできる状況を見たら、苦情の一つも言いたくなる気持ちはわからなくもないですね。でも、利己心から、その雪を道路側に出してしまうと、そのせいで宅配の車やタクシーが動けなくなるばかりでなく、救急車等の緊急自動車の通行にも支障がでて、地域全体のマイナスになってしまいます。

ですから、まずは個々が利己心を肥大化させず、公共心を高くして、地域社会のために除雪に協力していく、理性的な自助の姿勢が大前提として必要ではないかと思います。もちろん、高齢化社会の中で介護や助けが必要な人たちは行政や地域による共助、公助が重要と思います。ただ、私も、67歳で、いわゆる高齢者のカテゴリーですが、同世代には元気な人たちがいっぱいいます。ですから、65歳以上は高齢者という単純なカテゴリー化もやめて、そういった方々も担い手として、みんなで公共心を高めながら、まずは自助で日常的な除雪から災害クラスの雪にも向き合う地域社会を目指すことが重要なんじゃないかと思いますね。

■司会・真砂 徳子さん

はい。ありがとうございます。

非常にですね、まあ去年は想定外と言えるような大変な雪があったからこそ、今日また

皆さんと一緒にこうしたほうがいいんじゃないかっていう、これがあったからこそ出てきた課題、前向きな道みたいなものも見えてきたんじゃないかと思えますし。

あと雪によって育まれていることっていうのもたくさんあるんだなっていうことを実感しました。

これまでの皆さんのお話伺って、まとめていただきまして今日お集まりいただきました皆様へのメッセージお願いしたいと思えます。

■秋元市長

ありがとうございます。いろんなご意見をいただいてまた会場からもですね、いろいろご質問いただいて。

時間の中で皆さんのすべてのご質問にお答えできなかったかもしれませんが。

やはり日常的に私たち雪がある生活っていうのはこれはもうどうしても札幌、北海道の住んでるものとしてこれはもう宿命です。で、いろんな生活、社会活動を行っていくうえで、そこを出来るだけバリアを少なくしていく、弊害を少なくしていくということ、これあの困りごととしてしっかりやっていかなければいけないということは事実。

じゃあその前提としながらも、一方で全く夏と冬のおんなじような生活ということもですね、これは現実にはなかなかできないというところもありますので。いろいろやはりプラスに考えていただくようなことだとか、それとこういった形の中で、それぞれやはり市民の皆さんが自分ができることを協力してやっていこうということを思っていただけということもですね、すごく大事なことだと思っておりますので。

いろんな情報提供も含めてですね、私どももしっかりさせていただいて、皆さんと一緒に住みよい街をどうやって作っていくかということに、さらに取り組んでいければというふうに思っております。

いろいろなかたちの政策のお金をかけていくということをやりにながらですね、今これからの時代ということ为先読みしながら進めていかなければいけないのかなと、そんなふうに思っているところでもありますので、引き続き皆さんと一緒にいろんな形で意見交換、議論させていただければというふうに思っています。

今日は限られた時間ではありますがけれども、いろいろなお話をいただき、また現状の状況それから今後の対策みたいなことも少しお話をさせていただくことができましたので。

これから皆さんと一緒にさらに札幌がよくなるように頑張っていきたいとこのように思っていますので、どうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございます。

■司会・真砂 徳子さん

ありがとうございました。

本当に今日の場がですね、私たちの街札幌のよりよい未来を作る良いきっかけになればいいなというふうに思います。ご登壇の皆様へ改めて大きな拍手をお願いいたします。

どうもありがとうございました。

以上を持ちまして、サッポロスマイルトークを終了いたします。

最後までお付き合いいただきまして、みなさま本当にありがとうございました。